

情報文化 学生瓦版

2016年7月6日
第96号

発行	情報文化学科
社主	玉田 アイスブレイク
編集長	関口 エスカレーショ
顧問	松村 エビデンス
	神部 クロージング
	八木 オロシネ
	鈴木 オアソライズ
	山口 コアコンピタンス
学生	佐藤 コミットメント
	海老原 シナジー
	澤田 ステークホルダー
	戸邊 ボトルネック
	角田 リソース
	永田 マネタイズ

サイエンスセミナー
今年の学年企画は
ベルとスーパーボール！！



講義 小林会長による特別講義
7月6日(水)に伊藤忠商事株式会社的小林会長をお招きし特別講義を行った。21世紀をどう生き抜いていくかをお話して下さった。 2面



現在とこれからの日本と世界

21世紀をどう生き抜いていくか

平成28年7月6日、伊藤忠商事株式会社の小林栄三会長が特別講義のために来学して下さいました。講義のテーマは「21世紀をどう生き抜くか」であった。

まず、伊藤忠商事株式会社と小林会長の経歴について、お話しして下さいました。伊藤忠商事株式会社は、総合商社である。総合商社は、お金とモノの流れを繋ぐ会社であり、小林会長は川で例えられていた。川上は「原料調達」、川中は「生産・加工・金融・物流」、川下は「卸売・小売」であり、川上と川下を繋ぐのが総合商社であるとお話しされた。この例えは非常にわかりやすく、私達も商社について理解することができた。

さて、小林会長は1972年に入社し、ハイテク商品の輸出入を担当された。その後、1976年から4年間を香港、1986年から8年間をアメリカに駐在された。当時の香港は不安定な時期であったそうだが、小林会長にとって印象深い魅力的な都市だったと伺う。

次に、世界の現状について話された。世界経済の状況についてGDPの成長率を用いて解説して下さいました。日本は2012年に1.7%であったが、2014年には0%になってしまっている。一方、同年の新興国では4.6%である。今さらながら自分達の国が置かれている状況を知った。そして、世界人口の増加について、今世紀後半はアフリカの人口が増加してくることを、そこにビジネスチャンスがあることを強調された。

さらに、今の日本は、先進国ではあるが、課題先進国でもあると話された。その理由として、いくつかの項目で現状分析をして頂いた。特に「失われた20年」については、私達が生まれてから現在までのことであり、実感を持って聞いた。そして、日本の人口は今の状況が続けば、50年後には約8700万となり、現在の3分の2まで減少してしまう。この現実と、これまでに話して下さった世界の現状を私達はしっかりと受け止めなければならないと痛感した。



小林会長による講義の様子

最後に、私達学生は小林会長からメッセージをいただいた。「人生は無駄な時間はない」「何事にも関心を持つ」「人生に無駄な時間はない」等々私達に期待される想いが熱く語られた。その中で会長は、私達にはそれぞれ誇れる力ややる気のある特徴があるとおっしゃった。それらを踏まえて「特徴を持った人間になれ」と熱く語って下さった。また、習得してほしい能力として、「異文化を理解し受け入れるためのグローバルとダイバーシティへの対応力」、「変化が激しい世の中への対応力」、などの6つの力を具体的に提示して下さいました。6つの中で「いつも社会を意識する力」というものがあつた。近頃、若者の「〇〇離れ」という言葉をよく耳にする。これは、私達若者の社会に対する意識の低さの表れである。だからこそ、小林会長のおっしゃるようにならなければならない。21世紀を生き抜いていくかをお話して下さいました。

内なるグローバル化の巻!

1 グローバル/ダイバーシティ対応力
2 変化への対応力
3 コミュニケーション力

「井さんに習得してほしい能力は6つあります」
伊藤忠商事 小林会長

4 熱い気持ちで挑戦する力
5 率先垂範行動力
6 いつも社会を意識する力

「21世紀を生き抜くには、これだけの能力が必要ですよ」
「なるほど」

「異文化を理解して受け入れなければいけません」
「多様性が重要なんです」

「熱い気持ちを習得して6つの力を」
「21世紀を生き抜く」

作: 澤田 ステークホルダー

かなければならないと改めて感じた。今日の情報通信技術、スピードの時代であつて、逃げないこと、そして変化への対応力が重要だと小林会長はおっしゃった。「背伸びしてジャンプすること」という言葉に勇気ももらった。小林会長は、質問の時間を設けて下さった。3・4年生が、次々と挙手して質問した。小林会長は質問する学生の目を見て聞いて下さった。目を見ることで、その人がどんな人なのかわかるのだそうだ。目をそらさない人は伸びる人であり、自信を持っていて人であると話された。この言葉に胸をえぐられるような想いがした。

今回の特別講義で、世界と日本の経済について日々意識し、考えなくてはならないことが多くあるということを学んだ。世界に目を向け、今後の社会に対応出来るよう、熱意に満ちた対応力やコミュニケーション能力などを身に付けていくことを決意した。

英語でひとつこと 【Nothing great was ever achieved without enthusiasm.】

これは、アメリカ合衆国の思想家、哲学者であるラルフ・ワルド・エマーソン(1803~1882)の言葉である。意味は、『情熱なくして偉業が達成されたことはない。』である。小林会長は、「今の若者に期待することは何か」という学生の質問に対し、「情熱を持つことを期待している」とおっしゃった。熱い気持ちがなければ何もできないとう会長のお考えからである。目標を立て、熱い気持ちを抱き、立ち向かえばきっとやり遂げられる。私達たちは、これから次の時代を担う存在である。情熱を持って何事にも取り組んでいきたい。(海老原 シナジー)

日声外語

(につせい)
(がいでい)

7割の日本人は英語を話すことが出来ないというデータがある。そんな時代の中、私達はどうすればいいのだろうか。小林会長による日本と世界の現状分析はシャープであり、ひとつひとつの言葉が全て心に響いた。グローバルとダイバーシティ(多様性)への理解が大切だとおっしゃった。もし英語が話せないならば、日本人がいない環境に出れば良いとのことだ。「語学は絶対にどうにかなる」という言葉を信じ、どうにかしたい。アメリカの聖職者ジェームズギボンズの言葉に「成功者になるために一番大切なものは、「自分にもできる」という信念である」とある。小林会長も何か一つでもいいから自分に自信を持つことが大切であるとおっしゃった。私達は現在、日本という小さな井戸の中で暮らしている。大海でグローバルと多様性を磨くために、まず、その井戸から抜け出すべきだろう。「井の中の蛙、〇〇を知らず」とならないために、小林会長の言葉をしっかりと自分の体に刻み込み、これからの人生を歩みたい。

(佐藤 コミットメント)

成長する人は
人の目を見て話す。
PDCAサイクルを回せる。
今日から実践!!

川上と川下を繋ぐ役割を担う!
世界全体が1つの市場に!!
総合商社
伊藤忠商事